

第 296 回

クローズアップ

この会社のココに注目!

名古屋支店発

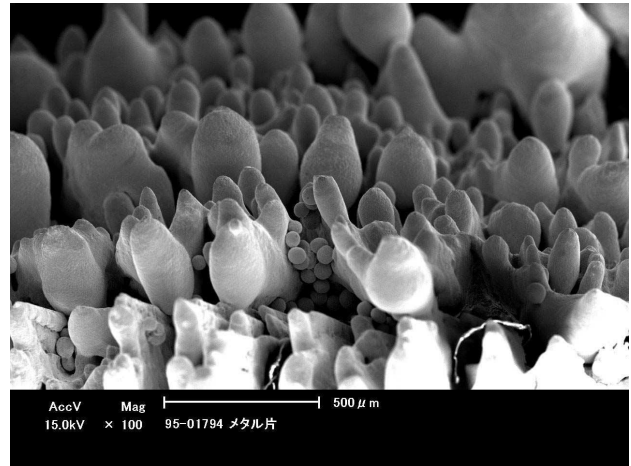
トライボテックス株式会社

(TDB企業コード 400622521)

潤滑油は機械の血液 “トライボ診断” で 保守費用の削減

トライボテックスは、機械設備の摩擦・摩耗・潤滑などに関する諸現象を、潤滑油を分析することによって調査する“トライボ診断”を提供している。これは機械設備（例えば電力会社の発電タービン）から潤滑油を採取し、そこで発生している摩擦摩耗状況を診断するものである。具体的には機械設備の軸受けやギア等の摩擦部分で発生した摩耗粒子をキャッチし、その形態・サイズ・濃度・色・組成等から対象箇所の状態を把握、それらを総合的に判断することで、設備の劣化状態の判定、摩耗部位の特定、余寿命の診断を行うものである。

“トライボ診断”には幾つかの強みがある。通常、機械設備は、設備を停止させて分解検査するのが大半である。しかしこの技術は、少量の潤滑油が採取できれば設備を停止しなくても状態を判断することができる。診断結果は、同社の25年以上に及ぶ診断実績から蓄積されたデータや経験、ノウハウに基づいた信頼性の高いものとなっている。潤滑油の分析は一般的に数値のみの分析データの提供に留まる中で、同社は分析データに加え、コメント・今後の予測を含めた詳細な報告書形式で診断結果を提供し、顧客から高い評価を得ている。さらに、対象設備毎に設定した管理



トライボ診断で解析された摩耗粒子

基準値で潤滑状態の変化を早期・的確に発見し、設備の保全を最適化する状態監視システムとしての利用方法もあり、設備の維持管理コストの大幅な削減を可能にする。

同社は、“トライボ診断”に加え、潤滑油管理全般や設備の保全計画・対策工事などのコンサルティング業務も行っている。現在の主な顧客は、全国の電力会社や各種のプラントを有する工業業界である。

今後は、建設機械や、国土交通省などの官公庁が管理するダム・河口堰・洪水対策ポンプへの営業を強化するとともに、同一マーケットの海外展開で業績の拡大を狙う。同社は、専門知識を要するオイル分析業界の中でも診断力の高いスペシャリスト集団である。

“トライボ診断”及び“TRIBODIAGNOSIS”は商標として既に国際登録済みであり、今後も幅広い業界での活用が期待できる。

(取材・文／名古屋支店情報部 大西 幹生)

会社概要

トライボテックス (株)

本社：愛知県大府市長草町山口 45-7

電話：0562-48-1148

代表：川畑 雅彦氏 (1952年生、岩手県出身)

業種：産業用機械の分析診断

設立：1985年11月

資本金：3000万円、従業員：34名

年売上高：3億100万円 (2011年3月期)

<http://www.tribo.co.jp/>